



一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

3-3-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo, 100-0013 Japan
TEL: +81-3-3593-0139
FAX: +81-3-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

News Release

令和5年3月6日

令和4年度第4回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を開催

(一社)日本物流団体連合会(池田潤一郎会長)は、3月2日(木)、令和4年度第4回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を千代田区の全日通霞が関ビルで開催した。

物流事業の海外における事業活動に関する課題について官民連携して検討する会合で、会員企業や国土交通省から32名が参加した。(内15名がWeb参加)

令和4年度の当ワーキングチームの調査対象国はバングラデシュである。昨年に引き続き、コロナ禍の影響で海外渡航による実地調査が困難であるため、デスクトップ調査等の他、Webを活用し海外の専門機関へのヒアリング等によって現地の物流実態について調査を行っている。

今回は、株式会社 IHI インフラシステム 海外プロジェクト室 端野博之氏を講師として招聘し「バングラデシュで展開する海外工事プロジェクトとロジスティクスの関係」と題しご講演いただいた。講演会にはWeb一般参加者を含め合計55名が参加した。

講演は、はじめに同社によるバングラデシュ工事・輸送実績の説明がなされた。同社にとって初の試みであった鋼橋の輸送について、輸送期間、大型部材である鋼橋のハンドリングなど、試行錯誤を重ねたプロジェクトを具体的に説明がなされた。輸送については、生産工場のベトナム(ハイフォン)からバングラデシュまでのルートや輸送モードの解説があった。現地のハンドリングレベルが低く、橋桁の損傷事例が発生するなどのトラブルに対して、梱包の追加養生による解決事例等を具体的に紹介された。

バングラデシュは通関プロセスが非常に複雑であり、輸送モードによって異なる各種手続きについて説明がなされた。迅速な通関手続きには、優秀な代理店と組むことが不可欠であり、優良な現地物流事業者といかに太いコネクションを持つかが重要であると解説された。

その他、情報量の少ない内陸輸送についても詳しく説明がなされた。

最後に、海外工事における「輸送」の重要性を解説。「輸送」は工事予算全体の比率からすると、インパクトの小さい部分であるが、資材や機材の搬入遅延やダメージ等が工事全体のスケジュールに与える影響を考えると、「輸送」も工事完工への重要な部分であるという事を強調され、講演は終了した。講師の端野氏はフォワードアーの出身でもあり、聴講者にとって非常に興味深い内容の講演であった。

ワーキングチーム会合では、国土交通省総合政策局、物流渉外官村井香菜氏から「最近の国土交通省の国際物流政策の取り組みについて」説明がなされた。具体的には、国際物流の多元化・強靱化に向けた実証輸送に関する実施方針の説明に続き、日中韓物流大臣会合及びASEANにおけるコールドチェーン分野の取組状況について報告がなされた。

その後、事務局より海外物流事情調査報告書の内容について説明すると共に、来年度の調査対象国をベトナムとする事を内容とする方針案を提案した。これに対し、メンバーから調査に対する具体的要望の発言もあり、事務局がそれらに対処する旨を共有したうえで方針案は承認された。

その後、事務連絡を行い、今年度最後の会合は終了した。

【講演された株式会社 IHI インフラシステム 端野博之氏】



【最近の取組を発表される国土交通省村井香菜氏】



【会合が開催された全日通霞が関ビル】



以上
事務局 嶋